

企画名称	僕らがつくる「ちいくのじかん」
現状・背景	学校授業だけでは社会に出て必要とされる能力を身に付けられない。将来社会に出ていることを不安に感じている。若者は自分の地域は好きだが、地域や社会問題に関して他人事である。また地域を良くしたいという気持ちはあっても社会に参画する手段が限られていたり、手法を知らない。
なぜ、必要なのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が社会にでて向き合うのは正解のない問題がほとんどで、学校の教科科目だけでは「正解のない問題」に対応することができない。地域は高校生にとって最も身近な現実社会であり、その地域には様々な正解のない問題が存在する。</li> <li>・若者が社会問題への関心が持てず他人事になることで、若者の投票率が低下することで、シルバーデモクラシーが加速し「若者が住みたい、住み続けたいと思えるようなまち」にならない。「私個人の力で政府の決定に影響を与えられない」と多くの若者が感じており、まちに若者の意見が通っていない。</li> <li>・あらゆる分野において進んでいるグローバル化は地域社会と世界を急速に結びつけつつある。静岡市内の外国人の増加、国籍の多様化が地域社会の摩擦を生み出すケースも増えており、地球規模の視野で考え地域の視点で活動する「グローバル人材」の育成が重要になっている。グローバルな問題に対するローカルな解決が必要であり、そのためには地域を知ることが「問題意識」を深めていく原点になる。</li> </ul>
市民ニーズはあるか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内閣府こども若者白書より 対象年齢：13～29歳 <ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたは今、住んでいる地域が好きですか？ 好き 22.5% どちらかという好き 52.3%</li> <li>・若者に政策決定過程への関与について 社会のことは複雑で私は関与したくない：31.2% →関与したいと思っているは一定数いる。</li> <li>・私個人の力では政府の決定に影響を与えられない 日本：61.2% スウェーデン：39.1% →この調査では政府だが、市政についても同様に感じているのでは？</li> <li>・働くことに関する現在・将来の不安 働く先での人間関係がうまくいくか 74.8% きちんと仕事ができるか 73.0% →働くことに関する現在または将来の不安は多くの項目で高くなっている。学校で社会に必要な能力が身に付けられていないため、不安を感じているのではないか</li> </ul> </li> <li>● 厚生労働省若者に関する意識調査 日本の未来をよくしようとする意識 考えてはいるが具体的にどのようにすべきかわからない 26.8% 仕事や学業を通じて社会に貢献したい 28% 寄付やチャリティーを通じて社会に貢献したい 9.4% →社会をよくしたいという希望はあるが、参画の手法を知らないまたは、限られている。</li> <li>● 高校生新聞社より ボランティア部の活動の内訳 募金活動：74% 地域貢献（町おこしなど）：43% →地域貢献の活動は1/2以下にとどまっている</li> <li>● 参議院選挙投票率 静岡県 18歳：49.31%、19歳：37.5%、20～24歳：32.56% 18～19歳の投票率 静岡県が43.56% スウェーデン（2010年）18～29歳 79% →18は高く、19歳になると投票率が下がる。すなわち高校に在学中の生徒は投票率が高いが、卒業後の投票率は大幅に下がる。 スウェーデンでは、18～29歳の若者の投票率が高い。</li> </ul>

<p><b>目的</b></p>	<p>最終目標：高校生の意見が地域で反映されることによって地域が住みやすくなり、その地域に住み続けたいという人が増える          事業目的：地域で高校生が実社会の正解のない問題に向き合い、対応することで「自分でも地域を変えることができる」という実感を育て、シティズンシップに富んだ市民になる</p>
<p>ターゲットは？</p>	<p>静岡市内在学在住の高校生</p>
<p>ターゲットはどんな欲求を持っているか？</p>	<p>将来、社会で必要とされるスキルを身につける機会を与えて欲しい。。自分の地域を自分の手で住みやすい地域に変えていきたい。</p>
<p><b>手法</b></p>	<p>高校生自らの手で市内高校に「ちいくじかん」（地域の課題を発見し解決案を考える授業）を導入するためにの検討会議を行う。若者会議のメンバーが主体となり運営・事務を行う。</p> <p>&lt;実施までの流れ&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「ちいくのじかん」準備研修会を実施          年6回、市内在学高校生を対象に準備研修会を実施し、まちづくりや若者の参画について学ぶ          「ちいくのじかん」検討委員会の委員を募集（市内在学の高校生） &lt;4月&gt;</li> <li>2. 検討委員の任命（静岡市）</li> <li>3. 検討会議の実施（全6回以上） &lt;5月～3月&gt; <ol style="list-style-type: none"> <li>第1回検討会議 「ちいくのじかん」検討</li> <li>第2回検討会議 「ちいくのじかん」目標設定</li> <li>第3回検討会議 カリキュラム作成</li> <li>第4回検討会議 学校の指定</li> <li>第5回検討会議 学校運営の基本方針</li> </ol> </li> <li>4. 指定校で実施（3ヵ月～半年） &lt;4月&gt;</li> <li>5. 事後検討会議 改善、カリキュラムの見直し &lt;9月&gt;</li> </ol> <p>・検討会議について          静岡市の運営協力を得ながら、高校生自らの手によって「ちいくのじかん」検討会議を行う。教育委員会に意見をもらいながら、会議と学校が主体となり実施していく。</p> <p>検討会議構成役員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家（シティズンシップ教育、まちづくり、若者社会参画）          大学教授、専門機関</li> <li>・学校          校長、教員、高校生</li> <li>・地域          NPO・自治会長、町内会役員、PTA、大学・専門学生</li> <li>・その他          社会福祉協議会、静岡市校長会</li> </ul> <p>・「ちいくのじかん」について          「地域に行く」「地域で知る」「地域で育つ」をコンセプトに高校生が地域に出て若者の視点から、その地域の人と出会い、その地域の資源・課題を発見し解決案を考えるという授業。高校生が主体的に活動し、その地域の課題解決や成功体験を経験することで、高校生の主体性や地域へ参画する市民性の醸成を目的とする。</p> <p>カリキュラム例          高校「総合的学習の時間」を活用し高校生自らがを行う。          話し合い、ワークショップ、地域交流等を通して体験型・問題解決型学習を行う。          Step1 「共感・表現」話し合い活動を通じて自分の考えを表現すること、コミュニケーションの楽しさを学ぶ。テーマを地域として自分の通学路や普段感じている地域の問題や資源について考える。          Step3 「課題発見」実際に地域に出て、地域の人たちと関わる中で地域の課題を発見する          Step2 「問題意識」ワークショップや再び地域に出て人にあたり、場所に行き、高校生が地域の問題について考える          Step4 「解決策の検討」課題に向き合い解決策を考える          step5 「プロジェクトの実施」発展として課題を解決するための解決案をプロジェクトという形にして、高校生が主体となり実施する。実際に地域にでて、地域をで活動を行う。</p>

競争は？市の役割は？	検討会議の委員の任命、授業実施までの検討会の運営協力
どの程度実施するか？	・ 検討会議は全5回行う。 ・ 「ちいくのじかん」は学校に合わせて行うが3ヶ月から半年掛けて定期的に行う。
経費は？	検討会運営費用、専門家招致の経費、参加する高校生の交通費
<b>成果指標</b>	取り組んだ学校数および生徒数、生徒の意識調査、住民の意識調査
どのようにして計るか？	「ちいくのじかん」の授業（活動）開始前アンケートおよび授業（活動）後のアンケートの継続的な実施および聞き取り調査を行う。
目標は？	高校数 2校 関わる生徒数200人 意識調査（高校生） 考えてはいるが具体的に何をしたらいいかわからないという生徒の割合が10%に減る 意識調査（住民） 「高校生が参画することで地域にとってよくなった」と思う住民が3割増える